

2009年度

科目名	書道史B		
担当教員	永田 誠		
配当	日文2	コード	54200
開期	後期	講時	金曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	日本の大和時代から現代に到る各時代の名品を鑑賞し、それを参考に臨書あるいは創作する。		
目的と概要	日本の各時代の名品を鑑賞し、それを臨書したり創作することにより、日本の仮名の書美を体得し、芸術的にも実用的にも重要であることを認識し、高度な芸術的表現が出来る能力と豊かな情操を養う。		
成績評価法	毎時提出する作品、小テスト、鑑賞レポート、授業態度、出席重視。3回以上欠席した場合は、単位の取得を認めない。(遅刻3回を欠席1回とみなす。)		
テキスト	技法講座付和漢書道史		
参考書	必要に応じて紹介する		
履修に当たっての注意・助言	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で書道を選択あるいは塾等で学習し、相応の実力を持っていること。 ・実技も加味するため、自宅での繰り返し練習を望む。 		
講義計画			
第1回	奈良時代以前から奈良時代までの日本の金文・碑文・写経を鑑賞し、書道史Aで学習した中国の六朝・晋唐の書風の影響を受けたことなどについて話し合う。(ビデオ 空海鑑賞)		
第2・3回	平安時代初期の概要を知り、中期の三筆の書を鑑賞 風信帖(空海)[李きょうの詩残卷(嵯峨天皇)]を臨書する。(画仙紙)		
第4・5・6・7回	平安時代中期の概要を知り、和様体の三蹟の書の鑑賞 いろは歌を書く。いろは・・・、わがよ・・・、うみの・・・、あさき・・・。(画仙紙)		
第8・9・10・11回	平安時代後期の概要を知り、爛熟した書を鑑賞し、変体仮名の単体と連綿を習熟する。(画仙紙)		
第12・13・14回	鎌倉・室町・桃山・江戸時代の古筆手鑑・寛永の三筆の書の鑑賞 高野切・蓬萊切・升色紙を臨書する。(画仙紙)		
第15回	まとめ。 明治・大正・現代の書の鑑賞 名句を「ちらし書き」で創作する。(画仙紙)		